夕刊
磐城新聞
十二月二十三日發行

定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢（郵税拾五錢）
廣告料金（普通欄）一行金六拾錢（特別欄）一行金九拾錢（指定）一行一圓二十錢
編輯印刷兼發行人 福島縣石城郡平町……
發行所 磐城新聞合資會社
電話五六四番

（日曜祭日翌日休刊）

潮聲俳座 其ノ五
伊坂香雨翁喜壽記念俳句

赤羽松堂撰

五客

蓑虫の二つ並んで時雨けり　紅箋
霜に傲り雨にたゆたふ野菊哉　思村
色かへぬ松とて雨を濃みどり　二葉
白雨晴れて月に青田の戰哉　文狂
赤々と時雨るる籔の冬椿　晩霞

三光逆位

雨の梅その雫さい香りけり　雨蝶子
菊の香やよろこびことの餘る家　東洋
蘭の香の滿ちし書齋の客哉　江亭

加

香聞くや春雨の夜の釜たぎる　松堂

坂田守穂撰

五客

東風に香をのせて月が瀬下りけり　北窓
雨ふくむ程にふくれし木の芽哉　十里
香合の埃うとみぬ木地炉縁　雨蝶子
朝風呂や手ふき絞る菖蒲の香　文狂
賜はりし御衣の餘香やそゞろ寒　江箋

三光逆位

正月も背や茶漬に香のもの　萬袋
天杯に滿ゆる屠蘇の香味哉　紅箋
菊の香のあたりを拂ふ机哉　香月

首藤紅箋撰

五客

母類り呼ぶのは線香花火哉　文狂
花桐や風のもて來る香の甘き　松堂
時雨るるや箱の兎のかさこそと　孤舟
糊の香のよき張板や冬の蠅　晃村
海鳴りの松にいささか時雨けり　長貴

三光逆位

老松のぬれて色增す時雨哉　紅雪
喜久の香に壽祝ふ賜杯かな　樂山人
菊の香や喜びことの餘る家　東洋

加

松を盞に喜久の香壽し初時雨　紅箋

鈴木北窓撰

五客

天盃に滿ゆる屠蘇の香味哉　紅箋
日溜りに水仙の香の和みけり　紅箋
雨ふくむ程にふくらむ木の芽哉　十里
蘭の香に滿つる書齋の客哉　江亭
菊の香や喜びごとの餘る家　東洋

三光逆位

赤々と時雨るる籔の冬椿　曉霞
墨の香のこぼるる梅の書院哉　東洋

蘭の香や雨に灯を金屛風　二葉

加

ふとくる香鶯低く輕う飛ぶ　北窓

時代警語（蘇峰）

○箭を發つの目的は、發射にあらずして命中にあり、若し命中すると否とに頓着なく、唯だ矢種の盡きる迄、絃の斷るる迄、亂射さへすれば可なりと謂はゞ、斯る敵は敵としても恐るるに足らず、斯る味方は味方としても頼むに足らず……（日曜講壇）

初冬雜詠（三）
島田忠夫

○入營する小松照君に

冬空の青さ冴わけりますらをの入營旗は吹きなびきつつ

赤ら面の君ににこにこ笑みてゐる今日のよろこび何とか云はも

新兵の君の軍裝見たしと思ふ冬青空を見つつも思ふ

遠山に雪かゞやける冬となり入營兵をけふは送りつ

勇み發ちし兵を送りて戾りけり拾ひし蜜柑手に持ちてゐる

一日一禪

○

岩下風生虎弄兒
獅子教兒迷子訣

拈華微笑

戰地から功無きを愧づと謙讓の美德を發揮。床しい事ではある

◇

不眠不休の交戰に無事とは神明の加護ならずして何ぞや

◇

元木に優る何とやらで三校否降

參道路原案陳情

◇

國稅徴收法適用の要ある四丁目の區費滯納者

◇

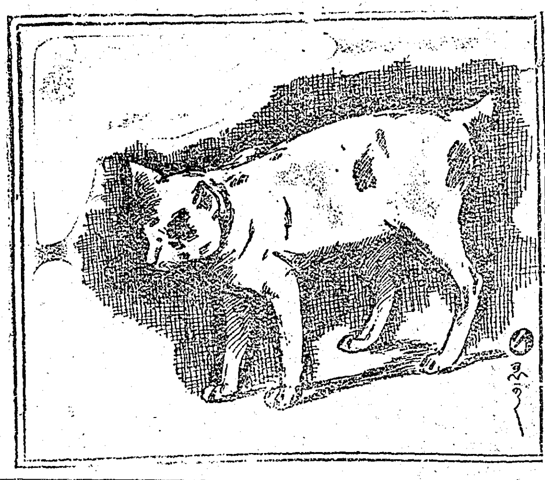
カレンダー愈々あと八枚となる

12月24日 △俳人蕪村歿す（天明三）△高山樗牛歿す、山形縣鶴岡の人、通稱は林次郎、文學博士、にして明治文壇の驍將、文明批評家として名聲嘖々たりしが壯年肺を患ふて逝く、惜哉。『樗牛全集』は其文集也（明治三五）△山階宮茂麿王殿下臣籍御降下、御家名を葛城と賜はる（昭和四）△シユール生る、英國の實驗理想家也。彼の發見に係る熱の係數は第十九世紀に於ける『ゴールデン、ナンバー』として嘖々學者の口にする所なり（一八一八）

講談
俠艶 女長兵衛
東京 斯波南叟（魚崎潮聲）

（九六）

長『オイ〳〵若い衆、道が違つて居やアしないか、何うも大塚では無い樣な氣がする』甲『ナニ違つちやア居ません、右手の高臺是れは巣鴨でげしてね』長『バテな巣鴨らしく無い、是れは目白臺のやうだがな』甲『ナニ其んな事はねへ大丈夫でげす』長兵衛と應答！て居たのは先棒を擔ぐ雲助跡棒が 乙『オイ雲州、旦那の仰しやる通り道が違つて居るぜ、此方を見ねへ北方へ雲州、矢鱈歩きやア江戸川だアな』と驚いた聲を張上げる 甲『小日向臺に紙すき屋江戸川……變だなア、本鄉から富坂を上つて何處までも眞つ直に來た筈なのに、是りやアいけねへ』長『俺も駕籠の中で判らなかつたが、隨分な間違ひをしたものだ、トツくに吹上げへ着いて居にやア成らねへ刻限だのに、困つたな〳〵狐にでもつままれたのではねへかへ』長兵衛もアツ氣に取られ、駕籠から立出でゝ四方へ眼を遣る見渡せば見渡す程、音羽の通りに相違なかつた 長『ハア妙な事があれば有るものだ、傳通院を眞ッ直に行つたとすれば大廻りをして護國寺前へ出て、跡戾りをする勘定になるが……』乙『旦那誠に濟みません、雲州ためへ先棒を擔ぎながら、何をボンヤリして居るんだな』甲『別にボンヤリはして居たのぢやアねへ、全く是れは音羽の通りに違ひねへのかな』と雲州は茫然と見廻して居る 乙『ボンヤリしねへ事があるかい、大概にして置け人面白くもねへ』甲『然う怒つたつて仕方がねへや、おめへだつて跡棒だと云へ眼を明いて歩いて居るのだらう、早く然う言つて臭れりやア好いではないか』乙『ウーム言はれて見れば其通りだがなア、何しろ是れでは仕方がねへ、大急ぎでヤツ付けやすから何うぞ勘辨して乘つてお臭んなせへ』長『然うか……』然うかとは言つたか何分不審が解けやらない、僅か一丁や二丁ならば格別三十丁小一里近くも廻り道をして來た夫れを誰も氣が付かなかつた云ふのは有り得べき事柄で無い、長兵衛再び駕籠に乘る氣になれなくて居ると、何處から出たか一匹の小猫、ニャー〳〵ニャンと急調な鳴き聲を立てながら長兵衛の裾へ搦んだ 長『ヤッッ是れは玉ではないか』遠く紙ずき屋の店からさして來る細いあかりの影で見る夫れは正しく飼猫玉であつた、裾をくわへて頻りに引つ張る樣子は只事ならず、長兵衛思はず小膝をポンと打つ、前々申上げた通り此の玉は度々不思議を現はして長兵衛を助けてゐる駕籠かき共に道を迷はして斯んな處へ引つ張り込んだのは正しく飼猫玉の仕業と悟つたからでございます長『オイ若い衆』甲『へエ旦那、ご立腹でもございませうが、どうぞお乘なさつて下せへ、其代り大急ぎ駈け足で出ますから 長『イヤ間違ひと云ふのは隨分ない事では無い、俺は此邊にも用がある、折角來たものだから此方の用を足し、今日は大塚を見合せやうと思ふ、サア是れは賃錢是れは酒手……此處で好いから皆んな戾つて臭んな』甲『えッ賃錢も酒手も下さるッ夫りやア何うも濟みませんなア、御立腹では無いでげせうか、ええ根岸の旦那』と無賴漢の雲助共も、氣の毒になつて手を出し乘て居ります長『何かお前達は根岸の長兵衛てへ事を知つてゐるのか』甲『冗談仰しやつちやア困ります、山下の駕籠屋で親分を知らねへものが一人だつて有りやすか、ダカラご立腹ではね……』長『あはゝゝゝア知つてゐられちやア閉口だが、根岸の長兵衛は大塚で狐にばかされたなんて噂でも立つては迷惑だ實は俺もウッカリしてゐた決して腹など立てねへからお前達も其んな事を言觸らして噂を立てねへ樣にして臭んな、早く是れを取りねへ』。



時計職見習生募集 十四五才位 詳細面談 要證人
平町 精幸堂

ラヂオ
…廿四日（木曜）… 仙臺JOHK

△前七、〇〇A ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象通報
△九、一〇 料理献立（廣東煎）小野寺嘉祝 日用品値段（鮮魚るい）
△一〇、〇〇A 記念講演（大正の時代を顧て昭和時代を觀る）伯爵二荒芳德
△一〇、三〇A 家庭講座（主婦の心得）佐伯志津代外二名
△正午A 時報
△後〇、〇五B 琵琶（靈馬の漣）川原旭鳳
△〇、四〇A ニュース 氣象通報 告知事項
△二、〇〇A 婦人講座（支那の家庭の話）上田恭輔
△三、四〇A 氣象通報
△四、〇〇A ニュース
△五、四五 今晩の番組豫告
△六、〇〇A 講演（東北の凶作地を廻りて）加藤重六
△六、三〇A 講演（クリスマスの話）井深梶之進
△七、〇〇A ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告
△七、三〇A 一、童話劇 クリスマスの夕（不思議なラヂオ）朝谷諭二作、北村兒童歌劇協會
△七、五五A 混聲合唱 東京シンフオニツクコーラス
△八、二〇B 三、クリスマスの集ひ
△九、〇〇A 四、管絃樂 東京ラヂオオーケストラ
△九、四〇A 時報 ニユース 氣象通報 番組豫告 積雪量

晝間夜間の別無 電氣應用の最新式撮影
何卒御愛顧の程を御願致します。
田町丸新デパート
サクラ寫眞館

今度の御調髪は是非どうぞ……！
明るい感じ清々しく電氣バリカンの爽快な刈込み………
氣持よいシャンプー、電熱アイロン 電氣マッサーヂの上品な仕上げ…
キット皆樣の御氣に召すで御座いませう………
是非一度御光來御調髪の程お待ち申上げます。
平町田町 石崎理髪店 大床號 電話一八八

新年繪はがき クリスマスカード
博文館當用日記其他
かるた トランプ各種
例年の通り豊富に取揃へました
御贈答用として 商品券（マルトモ食堂 マルトモ運動具店 共通）御利用願ます
マルトモ 柴田書店
平町四町目 電話{五九七 二三四 一二三 一八五}番

うな丼 金五十錢 同三十五錢
蒲燒 金八十錢
鳥料理 金二十五錢
季節料理よせなべ御一人前以上
割烹 魚榮 平田町 電話四二四番
出前迅速

●平素の御愛顧に酬ゆる謝恩奉仕大特價提供●
歳末大奉仕大賣出し
十九日より二十五日迄
市價の昂騰に逆行する奉仕的最安値で豊富な在庫品を破格提供いたします。
永久に殘る最安値のレコードです。この際御利用御用命願ます。
あらゆる百貨を具へた
中野洋品店 平町二丁目 電五三番
中野名物 十錢一均賣場

診察時間繰上
◎受付 午前七時より
◎宅診 午前八時より
但し急患者は此限りに非ず
内科一般
難波醫院 醫學博士 難波睦
平町新川端（釜屋新宅向）電話五〇二番
（入院需に應ず自炊の便あり）

金輸出再禁止と三井の大奉仕
金輸出再禁止に伴ひ商品市價は大暴騰を來す事と存じます。弊店にては幸ひに安價品豊富に仕入れ置きましたから平素の御愛顧に報ゆる爲此際値上げ致さざるは勿論在庫品は一層お勉め致す覺悟に御座ひますから年末年始の御用は何卒三井へ御用命の程偏に願申上げます。
三井呉服店

吉田眼科病院
平町紺屋町

本年最終の大廉賣 十二月十七日より三十日迄 十四日間
實用家具漆器雜貨
賣出し中に限り日用雜貨類均一賣場特設
十錢均一 二十錢均一 三十錢均一 五十錢均一
價格以上の優良品堀出し物 澤山あり 數に制限あり……！
御早いが御德で御座います
年末年始の御贈答には丸本の商品券の御利用を

三方桐タンス	七、〇〇	裁縫板足付	二、〇〇
檜釣洋服タンス	一五、七〇	張板	二、〇〇
本箱	一、五〇	正月用屠蘇揃	三、五〇
テーブル引出付	三、〇〇	屠蘇用銚子	一、八〇
机丸足二ッ引	一、八〇	正月用盃臺付	一、五〇
椅子	一、三〇	洗朱塗會席膳十枚	八、〇〇
腰掛	一、五〇	洗朱塗吸物椀十個	一、五〇
組立書棚	一、〇〇	黑塗蒔繪付衣桁	一、八〇
唐木卓二尺五寸角	五、〇〇	菓子器丸形	一、二〇
桐丸火鉢	二、〇〇	柾徑尺八	一、〇〇
大神宮	一、七〇	茶ビツ	一、五〇

（配達無料…但し賣出し中に限り）
丸はん家具店 平町三丁目 電三五九番

滿洲から

本社の慰問に對する謝狀一束

熱烈なる支援に對し 功無きを慚づるのみ

朔北の野に謙讓自ら持する

湯本町出身　日野俊男君

―國家の現況、產業に經濟に且又今回の事變の報道に寢食を忘れて御勤務の由愚生戰地の中で滿腔の意を以て御祝詞申し上げると共に感謝に堪えません、今回の滿洲事變に際しては郷土皆々樣には多大なる御心配を蒙り且又

◇熱意ある御激勵　御慰問の御芳墨に對してはたゞ〳〵感謝に堪えません、又貴社よりの御慰問紙に依り內地の情況手に取るごとく拜見し何等心配もなく活動し得ることの出來るのを此處に重ねて感謝致します。九月十九日以來數回に亘る戰鬪中愚生輕機分隊長として彈雨の中に參加せしも身に輕傷だも負はず且又何等の一功績も擧げ得なかつたことは誠に殘念でなりません、若し再度

◇故郷の地を踏み　し時如何にして皆々樣に顏を合はすか又如何にして辯解すべきかと皆々樣の御芳墨を戴く度ごとに惱み居ります日頃の愚生の事故惡しからず御許し下さい。十二月五日に第二回の出動命令ありて長春を出發、二晝夜を軍用列車にて暮し一週間に亘る嚴寒の露營生活三日三晩一睡もせず凍結せし散兵壕の構築、時來りて十八日三間房、昻々溪の總攻擊

◇惡戰苦鬪の結果　皇軍の戰勝する處となり十里の路を追擊しつゝ前進して馬占山の居城なりしチチハル黑龍江省軍兵舍を占領して警備の任に就く、二十八日振りで入湯する支那浴場の氣持ちよさ、食物なくして味噌、醬油、砂糖なき何んの味もしないメリケン團子に舌を鳴らし空腹を滿した時のうまいこと、二週間に渡るチチハルに警備も無事果して〇〇旅團と交代して

◇長春市民歡迎の　裡に一ヶ月振りで見る懷しき兵營に歸りて今は休養中であります、今日此頃は兵器檢査、被服檢査等で忙しい日を追つて居ります、班內では戰友達は當時の戰鬪の自慢話しで花を咲かせて居るも自分は赤面するのみである。然し今後の戰鬪には彼等より以上活動して郷土否御國のために奮鬪する覺悟でありま　す、果して出來得るや否や?

◇皆々樣の御援助　を御願ひします、今日(十日)は三間房、昻々溪で勇戰して戰死された五名の英靈祭である、參列するもの長谷部旅團長閣下我が聯隊各兵科商業學校、女學校、各小學校の生徒、在留長春市民、それに人の目をひきつけるは支那人の參加、軍服に身を包める張海鵬並に其の幕僚、支那の現況は如何に、支那と云ふ國は面白いものだ、弔慰に對するラッパの吹奏

◇蕭々として聲な　くたゞ上空に弔慰する我が飛行機の爆音するのみ、劇的シーンとは斯くの場面を言ふのでせう、彼等の英靈は永久に滿洲の地に護國の神となりて、拙文にて皆々樣の御援助を感謝すると共に尚將來の御援助を御願ひします郷土の市民に對し貴社を通じて感謝の詞を御願ひします。

裝甲列車が脫線し 不眠不休で交戰

皇軍の前には無敵も同樣さ

(植田出身)長瀨菊男君の快氣焔

―磐城新聞に今日初めて接して今日の戰ひもすつかり忘れて餘念なく讀み續けました、異郷の空にありてましてや戰地にありては磐城新聞は何より私にとつては否同郡出身者に取つては何よりの慰安です。又其の日の

樂しみで　もあります誠に有難度御座居ます。厚く〳〵御禮申上ます、小生如き者にも及ばずながら今日一國民としての義務を果される事を無上の光榮とする處です。出動して以來茲に三ケ月をあらゆる戰ひの第一線に起つて裝甲列車生活を送りました、遠くは吉林、或は鄭家屯通遼、洮南チチハルの方まで

第一線こ　して出動しました、通遼方面にては二回に亘つて脫線に見舞はれ其の度に二千名を數へる敵に包圍され二日二晩不眠不休絕食にて交戰しました。チチハル攻擊にても凄慘を極め事變初まつて以來の激戰で有りました、敵は幾萬を數へる兵隊を有するも亦偉大なる武器を支持してゐても大和魂を有する皇軍の前には

無敵も同　樣です、日露戰爭にて先輩逹が血を流して護りし此の地を何んで彼等の手に渡してなるものか彈丸つきれば肉彈となりて敵陣に進みます、最後の勝利は常に正しい道を步む者にあります、國際聯盟なごこの際恐れては居られません、戰の無くして平和は來らずです徹底的に此の際やつつけなければなりません戰爭はこれからです、小生今尙ほ

元氣益々　旺盛にて三十七度の嚴寒を突いて無事存在致して居ります、先はこれにて失禮します御禮まで貴社の發展をお祈りします。(十二月十一日)

〇〇〇〇〇〇

第三校兒童から　平第三小學校三年生松崎惣兵衞君は一圓、瀧口勝久君は一圓五十錢を滿洲兵慰問金にと二十二日受持敎師へ提出した

掛け金が困難で 平町の納稅組合減少

當局維持策に腐心

平町に於ける納稅組合は其筋の督勵に依り年々其の數を增し昨年末現在で百十七組合に達し縣下に於て斷然頭角を拔き優良組合として再三の表彰を受けた組合もあつたが現在では既に百一組合に減少しに上不況の爲兎角掛金の不足勝ちに加へ借受人が增す一方なので景氣が挽回せぬ限り愈々組合數の減少を見る狀態にあり其筋では之が維持策に就て頭を惱ましてゐる

强制徵收の途なく 整理難の區費滯納

怠る方にも相當の言ひ分

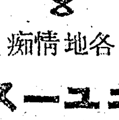
各種租稅の滯納に就て當局が少からず惱まされつゝある旨屢報の如くであるが殊に強制徵收の途無き區費にあつては納付の資力あるものにして尙ほ懈怠しつゝある向少なからず甚しきに至つては四丁目附近某有力貸家主の如き滿三年越し錢一文も納付せぬのに反し僅か十錢二十錢の零碎なる納付者に對しては再三嚴重なる督促を發するなど區費滯納の不整理は單り納付者側の怠漫のみに止まらず徵收者に於ても些か亦寬嚴宜しからざるものあるに憤慨した一部區民は自ら滯納同盟を組織して納付反對の氣勢を擧げんとする雪行にあると

第三校通學道路の原案實現を陳情

埒あかぬ時は縣當局へ

三年越しの懸案として町民から呆れられてゐる平第三小學校通學道路問題は屢報の如く降雨季に於ける通學兒童の難澁に加へ非常變災時に於ける活動不便の理由から近來地元民は縣當局に陳情して其の解決を求むべしとの輿論が高まつて來たので區長は之を慰撫し乍ら再三組長會を開き熟議した結果此程町當局に陳情した村上松吉氏所有地內を通ずる第三案は既に地主に應諾の意志なきと同案の實行に依つて工場を中斷さるる菊地民造氏の強硬なる反對に依つて全く實行不可能と認めらるるに至つたので該案を放棄し現在の九尺作場道を三間半に擴張せんとする原案を滿場一致可決した上志賀兵造氏外九名の調印を取り纏め今二十三日平町役場に原案道路促進方の陳情書を提出したが地元の意見完く一致した今日尙ほ年內に左右の決定を見ぬ場合は更に縣當局に歎願して飽く迄初志の貫徹を期する事となつた

各地情痴ニュース



△巡査の妻が。名古屋市新榮署員が深川端を巡ら中春を賣る女があるので引致取調べた處齊藤こう(三八)とて元警視廳巡査、齊藤垣の妻と判つた。二人は退職後仕事に困り各所を流浪してゐたが十月はじめ名古屋に來り中區蘇鐵町の木賃宿を寢泊りして步き妻こうが一回五十錢宛で春を賣つて其日の糊口を塗してゐたのだと。

△愛は冷める。神戸市林田區苅藻通り四丁目八三川崎造船所職工治嗣豐(三六)の內緣の妻三輪いと(三五)は猫いらずを多量に嚥下して苦悶中を家人が發見兵庫縣立病院に擔ぎ込んだが生命は覺束ない、二人は好きな同志で自由結婚をしたのであるが近頃喧嘩の絕え間がなかつた

△まづエロを。名古屋市中區金澤町風月食堂坂本やす子方裏口の戶を破壞してハンカチの覆面をした一人の怪漢が忍び入り二階寢室の電燈を消して手さぐりにアヤシゲナ事をはじめたので女給はびつくり仰天悲鳴をあげ寢亂れ姿で追ひ出すと、今度は金を出せと大喝現金八十一圓を奪つて逃走した。犯人目下嚴探中

△警察で惚氣。岐阜縣翁島郡中屋村森耕市(二八)は同縣笠松上本町豐年食堂の女給はる子(一九)にのぼせ上り日夜通ひつめたが遂に金に窮し同郡中屋村森久次郎方へ忍び込み現金拾三圓を窃取したこと判明此程捕縛されたが(どうしてあの女はイ、のでせう)のノロケで警官を煙に卷いてゐる

△ヒトゴロシ。京都市內北野天滿宮祠祉の境內から突如『人殺し』と女の悲鳴が聞ゆるので西陣署員十數名がかけつけて見ると二十歲前後の女が倒れてゐるので取調べると上京區御前通り今出川下る岸本光男(三〇)內緣の妻深川末野(二四)で友人と姦通してゐるとの邪推から夫に毆る蹴るの暴行を加へられたものと判明した

貧困兒 三十六名

哀れな生徒を 町役場が賑はす

平町では歲末の貧困兒童救濟に就き町內三小學校に調査方を依賴したが第三小學校には保護者會費基本金等の滯納は愚か其の日の糊口にさへ困つてゐる家庭が少くなく今回の調査の結果親の失職病氣等に因る該當者三十六名の多數を發見中には母一人子四人で長姉が子守の爲學校も休み勝といふ悲慘な家庭もある

網に捲込まれ 深夜の海に墜つ

四倉の漁夫投網中溺死す

四倉町新田六九金田昇次郎所有漁船に十一人が乘込み今二十三日午前一時頃四倉沖合に出漁中乘組員同町新町居住渡邊善之丞(三三)は投網せんとして網に捲込まれ海中に轉落したので大騷ぎをして救助作業に取り掛つたが夜中の事とて如何ともする事出來ず遂に溺死した同人家庭には四人の子供があり途方に暮てゐると

山中で鬪鷄賭博

七名を一網打盡 非現行も續々檢擧

昨二十二日午後三時頃內郷村大字宮字宮澤地內山林中で同字小堤市太郎(六二)羽鳥仙吾、山田仙松、古谷野富吉、永井七太郎、竹之內完郎、横田元吉の七名が鬪鷄賭博開帳中を平署員に探知され一網打盡に檢擧されたが同人等の自白に依つて關係者十餘名が非現行犯として目下引續き取調べを受けてゐる

□□□□□

米穀共同販賣　石城販賣利用組合の米穀共同販賣は二十四日午前九時から平驛前農業倉庫に於て行ふと

勞働者 災害扶助實施注意

勞働者災害扶助法の實施は愈々目睫に迫つたが該法の適用を受くべき事故生じたる時は事業主は十日以內に場所、名稱、本籍、住所氏名、生年月日(法人は其名稱主たる事務所の所在地代表者)事業開始、月日、當時使用男女勞働者數、始業終業時刻、休憩休日、動力又は火藥類使用者は地下作業の有無、其他を其筋へ申報すべき旨縣令あつた

郡下女子 卓球大會

來月マルトモで

マルトモ主催の郡下女子個人選手權卓球大會は來月十七日午前十時から同所樓上で開催する事となつたが各方面からの參加非常に多く斯界空前の賑ひを呈するであらうと今から期待されてゐるが尙ほ二月十四日にも同主催で郡下卓球チーム選手權大會を開催すると

珠算講習會

出席者百餘名

來二十九、三十の兩日第一小學校で開催さるる星伊策氏の珠算講習出席者は左記の如く百八名の多數で尙ほ增加の模樣であると

草野五、大野第二二、合戶三、內郷高十一、鹿島二、內郷二、川前四、大野四、泉三、大浦十二、永井一、赤井三、高久三平窪一、磐崎七、好間二夏井一、好間八、小川九平第一　十八、第二　十五第三　十

第一校競技會　尙ほ第一小學校では昨二十二日尋五以上の各組から四名の選手を選み珠算競技會を開催したが成績左の如し

尋五得點八七志賀正義、七五中野義廣、七〇根本忠雄、六六山下卓明、六四高野邦一、尋六九五和田壽夫、九五山家重三、九五長谷川隆、九四江口成年、九一志賀長平、高等一年九三石川榮一、九〇山村光作、福田保夫、八七小齋誠、八四淸水久吾、二年百點箭內重利、松本貞雄、大塚辰雄、九五鈴木長平

就學兒童 屆出注意

明春入學する兒童は大正十四年四月二日ゟ十五年四月一日迄に出生したものであるが從來往々公簿の寄留地と現住所と相違あるため手續上に支障を生じた向も尠くないので右の如き場合は來る一月二十日迄に轉寄屆の手續を完了されたき旨平町役場では在平各官衙團体宛に通牒した尙病氣其他に依り就學因難者に就ては同日迄に診斷書並に印鑑携帶の上屆出られたいと

縣道編入路線

郡下に於ける縣道編入線左記の如く今二十三日平土木監督所へ通知あつた

泉—植田線　關加井嶽—赤井停車場線　走熊—江名線

平消防副組頭 石坂氏退職

後任は柏原氏

平消防副組頭石坂詮太郎氏は老齡の故を以て昨二十二日辭職したので同組では今二十三日午後一時から平署會議室で幹部會を開き後任詮衡、退職慰勞其他に就て協議する處あつたが同氏は明治三十九年副組頭に就任以來今日迄二十餘年間十年一日の如く盡力した功勞者である、尙ほ同氏退職に伴ひ次の如く組員の異動あつた

副組頭柏原幸次郎、小頭堀江正雄、(高野氏後任)小頭佐川三良、伍長片寄敬太郎、菊田萬吉

兒童手工品

發明協會で募集

帝國發明協會では今回全國の中等並小學生徒の手工品で獨創的考案の優秀なるものを表彰することになつたので郡內でも左記部門により出品すべく準備中であると

木製、竹製、布綿加工、金屬製、セルロイド、紙製、陶器

〇〇〇〇〇

三日目當籤者

平町吳服祭福引

(特等)赤井村阿地義隆　好間平栗喜一、磐上ハツエ、武田フミ　(一等)大工町松崎リウ、鹿島箱崎義雄　(二等)平町稻田、宮草野作太郎、四倉小室平町飯田、大浦渡邊金三郎、鹿島佐藤リン

平町年末町會

平町年末町會は二十六日午前十時から開催六年度歲入出更正豫算其他に就て協議する

〇〇

正誤　去る本月十七日夕刊發行の貴紙二頁九段末尾に掲載されたる鈴木房吉對遠藤に係る記事は事實無根に候へば新聞法により火急御取消相成度候。此後に信用上絕大な損害可有之特に申添候十二月二十日平町才槌小路鈴木房吉

□□□□□

平町出納檢査　平町の臨時出納檢査は二十七日午前十時から行はれる

〇〇〇〇〇

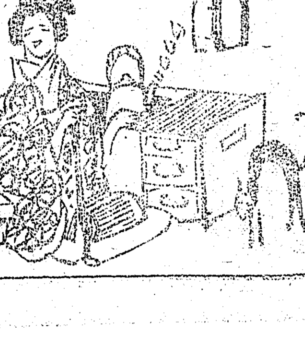
外套二着拾得　平町銀冶町二二佐藤ハルは昨二十二日午後八時頃同町地內で外套二着價格六圓八十錢を拾得平署に屆出たが右は長橋町五〇谷津春吉が三丁目ナカヤ洋服店から購入して歸宅の途中遺失したものと判明下げ渡さる

懸賞川柳發表

題『無盡趣味普及』

佳句　八十誦(その四)(記念品送呈)

無盡あるお蔭立派に嫁にやり　米澤　曉步
無盡あり後憂ひなく出征し　同　同
團欒の家庭はみんな無盡黨　同　同
戶籍簿の名で掛けてゐる中年增　(畫)湯本　颯來坊



安全な無盡農村よく肥し　田人　一角
千圓の夢から起きてもう稼ぎ　同　同
氣强さは無盡が取れる年の暮　東京　新平
無盡にも這入つて笑ふ日が續き　同　同
不景氣も他所に無盡を掛け續け　同　同
積んで行く無盡と伸びる子の背丈　同　同
台所のすみから產むだ無盡金　米澤　瓢花
繁昌の蔭に無盡の力見え　同　同
心掛け一つ無盡も樂に出來　同　同
家屋敷取りかへしたも無盡なり　平　洋一郎
喰はず嫌ひ今ぢや三口の無盡黨　同　同
夢ぢや無い千兩箱も三ヶ年　磐崎　滿洲
新世帶子を產む頃に無盡金　平　貞孝
日掛した金と思へぬ無盡金　同　同
無盡金見せて病む母ニコニコし　平　長一
不景氣を知らぬ無盡の笑ひ顏　山形　小田松
無盡をば笑つた奴は泣いてゐる　同　同

營業所開設

倍舊の御引立相仰ぎ度奉懇願候

芳醇銘酒

白馬の雪

ハクバノユキ

平町二丁目一一　白馬の雪營業所

辰の口本家　松本德一

電話　五四六 營業所　二八五 本店